

地域包括ケア推進会議における主な議論 (地域での対応方針・市レベルの課題)

平成29年度 第2回 松戸市地域ケア会議
平成30年2月15日

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理①

- 平成29年6月～11月の間、地域包括ケア推進会議は合計13回開催され、医療・介護・福祉・地域関係者等のほか、テーマに応じて、ボランティア・権利擁護機関・松戸市立病院・子ども担当部署等が参加して、地域課題の解決に向けて議論が行われた。
- 推進会議では、課題解決に向けて、地域での対応方針を決定する。地域で解決できない課題がある場合には、そうした課題を抽出した上で、市レベルの課題につなげる。

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
1. 認知症の 理解促進	○若い世代に認知症の理解を促す方法がわからない	○近隣住民が、認知症の疑いがある独居高齢者に対し、「火事が怖い」「子どもに危害を加える恐れがある」等、発言が聞かれた。【明1】 ○夫婦ともに徘徊が頻回で商品を鞆に入れてしまい万引き行為と間違えられてしまう。地域に於いてどのように関わり支えていくべきか検討した事例。【馬橋】	○町会ごとに認知症普及啓発活動を行う。 【明1】 ○親子で参加する地域行事に健康講座（内容は認知症）を開催する。 【明1】	○小中学生への認知症等の普及啓発を図るなど、多様な世代への認知症の普及啓発を図る。	明1 馬橋
2. 住民による認知症の見守り	○若い世代がオレンジ協力員の活動を知らない	—	○地域単位のオレンジ協力員の連携と活動状況の共有 【馬橋】	○市全体のオレンジ協力員の連携と活動状況の共有	馬橋

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理②

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
3. 認知症の 地域支援	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症が進んでいる場合、体操教室等地域の活動に繋ぐにも、日時を間違えずに会場に行くことが難しい。 ○気軽に立ち寄れるサロンが地域に少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○銀行で高額の現金を引き出そうとした為、銀行と警察の協定により警察が本人と面談した際、認知症を疑った。包括が訪問して面接したところ、軽度の認知症と思われた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○民生委員が包括が行う体操教室に本人を誘ってもらう。本人が通えるようになれば、オレンジ協力員に会場と自宅の行き来を支援してもらおう。【小金】 ○困ったときに気軽に立ち寄れる近所のサロンが増えると良い。 ○サロンにおけるオレンジ協力員などによる傾聴ボランティアの実施【新松戸】 	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症の人と家族を支える地域資源の充実が必要。 	新松戸 小金
4. 社会資源 の把握・ 開発	<ul style="list-style-type: none"> ○気軽に立ち寄れるサロンが地域に少ない。 ○高齢者の生活支援を行う社会資源の一つとしてボランティアへの期待が高いが、ボランティアに関する情報が整理されておらず住民への周知が広く行っていない。 ○2号被保険者では、現状の介護保険サービスの内容では、賄いきれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○60代独居の介護保険サービス利用者。サービス利用者としては若く、複数の障害や疾病があるため介護保険だけでは生活課題に対応できない。【東部】 	<ul style="list-style-type: none"> ○地区内のボランティア情報を地区社協等と連携し、関心を持った人が簡単に情報を得られ実践に結び付く仕組みを考える。市社協のボランティアコーディネーターやインターネットの活用等が考えられる。【明2西】 ○ボランティアの説明会や研修会を定期的を開催するなど、地域住民の関心を高める。【明2西】 ○「馬橋地域の集いの場」のマップを利用推進を図る。【馬橋】 ○高齢者支援連絡会やサロンで社会資源に関して、情報交換を行い、若年者も利用できる社会資源マップを作成する。【東部】 	<ul style="list-style-type: none"> ○市社協と連携し、ボランティア活動の促進を図る。 ○外国出身の高齢者に対する支援の在り方の検討。 ○社会資源の把握・開発の推進 	明2西 東部 六実六 高台 馬橋

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理③

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
5. 外出支援	<ul style="list-style-type: none"> ○（電動）車いすで入れるお店が少ない。 ○交通に不便な地域が多い。外出手段がないために、家に閉じこもりになってしまう人も多い。 ○運転を要しなくても高齢者の生活が不便にならないようにするためには何が出来るか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人で通院できない人の院内介助、外出支援を近所の人が行っている【明2西】 ○外出は（電動）車いすを使用。お店に入りたくても段差があり、躊躇してしまう。【新松戸】 ○度々警察に保護される程の認知機能低下がありながら車の運転を止めない高齢者ドライバーについて【常盤平】 	<ul style="list-style-type: none"> ○障害者専用トイレの場所などマップ化【新松戸】 ○地域で互いにアイデアを出し合い、病院のバスなど、活用できるものがないか検討を行っていく。【東部】 ○福祉カーをみんなで乗り合わせる等（介護関係の車含む）、有効活用する必要がある。【常盤平】 	<ul style="list-style-type: none"> ○既存の病院や娯楽施設の送迎バスに地域住民が便乗できるシステムの検討 ○介護関係の車を高齢者の外出支援に利用できるように、市内の事業所と協定を結び連携体制を整える。 	明2西 東部 常盤平 新松戸
6. ゴミ問題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○繰り返しごみをためて、ゴミ屋敷にしてしまう。 ○高齢者や障害者にとってゴミの分別が難しい。【常盤平】 ○日常生活に支障をきたすほどのゴミ屋敷になっているが、本人は問題と感しておらず、金銭的に片付けられない。【馬橋西】 	<ul style="list-style-type: none"> ○障害者の子と2人暮らし。認知症進行により、家の片づけ、ゴミの分別、ゴミ出しが出来ないため、室内が乱雑になっている。【常盤平】 ○日常生活に支障を来す程、居室内外にゴミが山積、散乱している。【馬橋西】 	<ul style="list-style-type: none"> ○町会独自の【ちょこっとサービス】を立ち上げる ○通学途中や、朝掃除の時間でゴミ出しに協力する体制を地域で取り組めないか検討する。【常盤平】 ○近隣住民が本人への共通認識を持ち、ごみ出しや分別の声掛けをしてゴミ屋敷に戻ることを防ぐ。【馬橋西】 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゴミ出し支援のニーズの把握と必要な方策の検討。 ○支援を求める力の欠如した高齢者への地域サポート医の活用を推進。 ○ゴミの問題について関係課と連携する。 ○他地域包括の成功事例を共有する情報交換会の開催 	常盤平 馬橋西

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理④

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
7. 見守り ネット ワークの 構築・情 報共有の 推進	<p>○地域で生活する高齢者に異変が起きたときに早期発見、早期介入ができるための見守り、相談、連絡体制が十分とは言えない。【小金原】</p> <p>○マンションのセキュリティが高く見守りが困難、個人情報の観点から情報が得られない。【本庁】</p> <p>○地域（民生委員）とケアマネの結びつきが希薄で、緊急時の対応などが円滑でない。【新松戸】</p>	<p>○アルツハイマー型認知症発症。ゴミだしの分別や時間のルールが守れず、近所から苦情あり。家族より本人と地域住民との間でどのように関わりを持てばよいかとの相談あり。【小金原】</p> <p>○数日間姿を見ない人がおり、民生委員が何かあったのではないかと心配していた。後日、すでにケアマネがついておりショートステイを利用していたとわかった。【新松戸】</p>	<p>○支援や見守りの必要な方を支える支援者とその役割を見える化し、マップの活用についての検討を行う。【小金原】</p> <p>○地域包括支援センターが中心となり民生委員・ケアマネ等支援者同士の顔の見える関係づくりを行う【新松戸】</p> <p>○マンションの管理人、管理会社等の情報を収集し一覧表を作成し、支援に活用する 【本庁】</p>	<p>○町会、民生委員等の地域関係者との重層的な見守りネットワークの構築の推進</p> <p>○見守り協定の締結推進と協定締結事業者との連携強化</p>	小金原 新松戸 本庁 六実 六高台
8. 地域共生 (分野横 断支援)	<p>○年齢到達に伴う障害から介護に切り替わった際、利用者に理解が得られにくく、関係機関の連携が取れていないことにより、支援者が困っている。【常盤平】</p> <p>○本人及び家族に認知症・精神疾患の自覚がなく、サービスを拒否しており介入ができない。【馬橋西】</p>	<p>○年齢に伴い障害サービスから介護サービスへ移行した。必要なサービスを最大限利用しているが、より多くのサービス利用を希望している。</p> <p>○明らかな認知症状やアルコール依存などの症状が認められるが、本人及び家族に自覚がないため、サービスの導入を拒否して支援者が困っている。【馬橋西】</p>	<p>○対象者に応じた障害及び介護保険制度の普及・啓発を行う。【常盤平】</p> <p>○地域住民による見守りと専門職による支援、両者が協働して円滑におこなわれるよう、顔の見える関係をつくる。【馬橋西】</p>	<p>○高齢者以外の他分野の関係機関との連携強化。</p> <p>○コミュニティーへの若年世代の参加促進</p> <p>○障害者総合支援法から介護保険法へ移行する場合は、それぞれの関係者で担当者会議を実施し、円滑な支援に結び付くようにする。</p>	常盤平 馬橋西

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
<p>9. 詐欺被害</p>	<p>○詐欺被害を少なくするためには何が出来るか。 ○電話詐欺被害が増えている。【常盤平】 【小金】</p>	<p>○業者の訪問販売に頻回に 応じてしまう独居・軽度認 知症の人を検討した事例 【常盤平】</p>	<p>○手口や被害状況を回覧板 で回す。 ○警察署等の出前講座を利用 して周知する。 ○留守電にして声を聞いて から出るように周知する。 ○町会で被害の実態調査を し、結果を市に報告して対 応策を検討する。 【常盤平】</p> <p>○個別訪問時に、普及・啓 発を行う。 ・留守番電話設定 ・ナンバーディスプレイ ・迷惑電話対策サービス ・警告、通話録音機の使用 【小金】</p>	<p>○高齢者に対する対応だ けでは問題解決に至ら ないケースがあり、他 機関との連携・ネット ワークの強化が必要</p>	<p>常盤平 小金</p>
<p>10. 救急搬送に関する こと</p>	<p>○救急対応に立ち会い同 乗、延命するか否か問わ れ困惑する。 ○救急搬送時に、病院の 選定にかかる時間の問題、 介護施設での対応の問題、 救急の適正利用に関する 課題がある。【矢切】</p> <p>○「寂しい」との理由に よる救急搬送が多い。 【小金】</p>	<p>○救急対応に立ち会い同乗、 延命するか否か問われ困 惑した。関わることに消 極的になってしまうこと もある【矢切】</p>	<p>○地区社協で作成している 緊急キット（SOSポット） を活用し、できる範囲で対 応。【矢切】</p> <p>○地域でも、救急搬送時に 必要な情報「救急隊が傷病 者搬送時に必要な情報10 か条」の普及・啓発をして いく。【小金】</p>	<p>○各部署で活用している 救急搬送時に必要な情 報の定期的な更新の必 要性を普及・啓発して いく。</p>	<p>矢切 小金</p>

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
11. 医療連携	<p>○1人で受診しているが認知機能低下がある方の場合は、在宅での生活状況が医師等に伝わりにくい。</p> <p>○ADLが低下しても在宅で健康に生活できるようにするため、現時点では医療と介護の連携が不十分。【新松戸】</p>	<p>○往診医や訪問歯科診療が相応しいと思う事例だが、ケアマネが適切な医療機関の選定に悩む。【新松戸】</p>	<p>○オレンジ連携シートや地域生活連携シート等、既存の共通の情報共有シートを活用していく。【新松戸】</p>	<p>○連携を効率化するための在宅医療・介護関係者間のルールづくり</p> <p>○ケアマネ等支援者が医療に関する相談できる機関が必要。</p>	<p>小金 新松戸 馬橋西</p>

別添

**各地域包括ケア推進会議における
参加者・議題・議論**

1. 明第1地区推進会議（平成29年11月17日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
11月17日 (金) 14:00~ 16:00	町会		医師		ケアマネ		1. 個別事例からの検討 2. テーマ「若年層の方に認知症を理解していただくにはどのような手段があるか」
	地区社協	1	歯科医師		介護事業者		
	市社協	1	薬剤師	1	通所介護		
	民生委員	3	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	小規模多機能		
	高支連		医療相談員		地域包括	3	
	健康推進員	1	社会福祉士		市役所	2	
			警察		学生 4		
			消防				
					合計	17人	

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	若い世代に認知症の理解を促す方法がわからない	認知症の疑いがある独居高齢者に対し、「火事が怖い」「子どもに危害を加える恐れがある」等、近隣住民の発言が聞かれた。	○	○町会ごとに認知症普及啓発活動を行っていく。 ○親子で参加する地域行事に健康講座（内容は認知症）を開催してみる。	

2. 明第2西地区推進会議（平成29年7月12日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
7月12日 （水） 19：00～ 20：45	町会		医師	2	ケアマネ	1	1.地域住民のボランティアへの関心を高めるための方策 2.ボランティア実践者を増やすための方策 3.特に高齢者の生活支援のために必要だと考えられるボランティアはどんなものか
	地区社協		歯科医師		介護事業者	7	
	市社協		薬剤師	2	通所介護		
	民生委員	1	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	小規模多機能		
	高支連	3	言語聴覚士	1	地域包括	5	
	その他	4	社会福祉士		市役所	1	
			警察				
			消防				
					合計	28人	

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	○高齢者の生活支援を行う社会資源の一つとしてボランティアへの期待が高いが、ボランティアに関する情報が整理されておらず住民への周知が広く行えていない。	目と耳が不自由なため一人で通院ができない高齢者。病院の往復はタクシーでできるが、院内では手助けが必要。総合病院の院内では必ずしも介助してもらえない。介護保険サービスの範囲外のため、やむなく近所所の人に対応しているが、限界もある。	○	○地区内のボランティア情報を地区社協等と連携し、関心を持った人が簡単に情報を得られ実践に結び付く仕組みを考える。ボランティアコーディネーターやインターネットの活用等が考えられる。	病院内のボランティア増やす○総合病院の院内ボランティアの配置促進 ○内科以外の科目の訪問診療拡張依頼
イ	○個人では、活動に結び付きづらく、また、継続した活動になりにくい。	同上	○	○ボランティアの説明会や研修会を定期的を開催する。	○市内のボランティア団体の情報の把握と周知

3. 明第2東地区推進会議（平成29年9月20日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
9月20日 (水) 17:45～ 19:00	町会	2	医師	1	ケアマネ	2	1. 事例の経過報告・モニタリング 2. 「ゴミ出しが適切に行えない」という課題がある 利用者の支援について
	地区社協		歯科医師	1	介護事業者	4	
	市社協	1	薬剤師		通所介護		
	民生委員	2	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師		小規模多機能		
	高支連		医療相談員		地域包括	3	
			社会福祉士		市役所	1	
			警察				
			消防				
					合計	17人	

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	ゴミ出しが適切に行えてない	独居生活。ヘルパーの介入には拒否的で、ゴミの処理ができなく、ウジ虫が発生、冷蔵庫内にコバエが飛ぶなど自宅の環境が整っていない。体調を崩し入院した際に室内の掃除を実施する。	×	○専門職に繋ぐとともに、見守っていく。	

4. 本庁地区推進会議（平成29年6月21日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
6月21日 (水) 14:30~ 16:00	町会	1	医師	1	ケアマネ	4	1. 自己紹介 2. 松戸市地域ケア会議の構造について及び平成28年2月松戸市地域ケア会議の報告 3. セキュリティーの高いマンションにまつわる問題について 4. 地域包括ケア会議の今年度の運営について
	地区社協	1	歯科医師		介護事業者	8	
	市社協		薬剤師	2	通所介護		
	民生委員	1	看護師	1	認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	小規模多機能		
	高支連		医療相談員		地域包括	3	
			社会福祉士		市役所	1	
			警察				
			消防				
					合計	24人	

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	セキュリティの高いマンションでは見守りが困難であり、問題が大きくなってから表面化する傾向がある。		○	○マンションの管理人、管理会社、等の情報を収集し一覧表を作成し、支援に活用する ○管理人と顔の見える関係づくりを行う ○マンションの住民、関係者へ相談窓口や介護制度・認知症などの啓発活動を行う	○マンション管理会社や管理組合、理事会等の連絡先の把握、高齢者の見守り協定、コミュニティづくりなどの働きかけ。

5. 矢切地区推進会議（平成29年8月24日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
8月24日 (木) 15:00~ 16:30	町会	2	医師		ケアマネ	2	1. 松戸市ケア会議報告 2. グループワーク（救急搬送について・独居高齢者の連絡網について・矢切地区、松戸市の取り組み） 3. 前回の個別ケア会議の報告
	地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者	3	
	市社協	1	薬剤師	1	通所介護	5	
	民生委員	3	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	小規模多機能		
	高支連		医療相談員		地域包括	4	
			社会福祉士		市役所	2	
			警察		・聖路加国際大学教授 1 ・矢切支所長 1		
			消防				
					合計	28人	

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	緊急搬送時における情報についての統一化	救急対応に立ち会い同乗、延命するか否か問われ困惑した。関わることに消極的になってしまうこともある。	○	○地区社協で作成している緊急キット（SOSポット）を活用し、できる範囲で対応。	緊急時、救急搬送に伴う個人情報シートが様々なところで作られているが、シートの作成、管理を一元化する。
イ	多世代に対しての命の尊さについて周知と啓発		○	○若い世代に向けての高齢者とのふれあいの機会、学びの機会を作る。	まちっ子プロジェクトの活性化に協力する。

6. 東部地区推進会議（平成29年9月28日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
9月28日 (木) 13:30~ 14:30	町会		医師		ケアマネ		1.地域ケア会議について（個別ケア会議 推進会議 市地域ケア会議の役割・意義について） 2.個別ケア会議・市ケア会議の報告 3.地域課題について 4.認知症施策の報告
	地区社協		歯科医師		介護事業者		
	市社協		薬剤師		通所介護		
	民生委員		看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師		小規模多機能		
	高支連	6	医療相談員		地域包括	3	
			社会福祉士		市役所	1	
			警察				
		消防					
				合計	10人		

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	2号被保険者では、現状の介護保険サービスの内容では、賄いきれない。	60代独居の介護保険サービス利用者。サービス利用者としては若く、複数の障害や疾病があるため介護保険だけでは生活課題に対応できない。	○	○高齢者支援連絡会やサロンで社会資源に関して、情報交換を行い、若年者も利用できる社会資源マップを作成する。	
イ	交通に不便な地域が多い。外出手段がないために、家に閉じこもりになってしまう人も多い。		○	○地域で互いにアイデアを出し合い、病院のバスなど、活用できるものがないか検討を行っていく。	○既存の病院や娯楽施設の送迎バスに地域住民が便乗できるシステムがあるとよい。

7-①. 常盤平地区推進会議（平成29年11月9日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
11月9日 (木) 13:30~ 15:00	町会	11	医師	1	ケアマネ	10	1.地域ケア会議の三層構造を説明し、推進会議の目的を伝える。 2.個別ケア会議に出席していない人のために、個別会議で話し合われた事例と抽出された課題の説明。 3.個別ケア会議で抽出された課題に対して話し合ってもらった内容を説明。 4.グループワークのルール説明。
	地区社協		歯科医師		介護事業者		
	市社協	1	薬剤師	1	通所介護		
	民生委員	2	看護師		ヘルパー事業所	1	
	ボランティア		保健師	1	クリニック事務	1	
	高支連	10	医療相談員	1	地域包括	6	
			社会福祉士	1	市役所	2	
			警察		その他 司法書士	1	
			消防				
					合計	50人	

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	高齢者が運転をしなくても生活が不便にならないような外出支援体制が整っていない。	電車や病院受診日を間違える等認知機能低下があるが、自身の車で外出している。道に迷うことや追突事故を起こしたことにより、何度か警察に保護されている。今後も運転をやめるつもりはない。	○	○地域の名簿に住民で支援可能な内容を載せた連絡網の様な物を作成する。 ○福祉カーをみんなで乗り合わせる等（介護関係の車含む）、有効活用する必要がある。	○介護関係の車を高齢者の外出支援に利用できるように、市内の事業所と協定を結び連携体制を整える。

7-②. 常盤平地区推進会議（平成29年11月9日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
イ	高齢者や障害者にとってゴミの分別が難しい。	障害者の子と2人暮らし。認知症進行により、家の片づけ、ゴミの分別、ゴミ出しが出来ないため、室内が乱雑になっている。	○	<ul style="list-style-type: none"> ○町会独自の【ちょこっとサービス】を立ち上げる。 ○ゴミだし割のメンバー間で、連絡ノート回して、気づいた事や、SOSを発することが出来るようにする。 ○通学途中や、朝掃除の時間でゴミ出しに協力する体制を地域で取り組めないか検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○【ちょこっとサービス】を立ち上げる体制づくりの協力。 小・中・高など学生と連携して協力体制が築ける関係性作り（繋ぎ）をしてほしい。 ○ゴミ屋敷について同意がなくてもゴミ捨てを出来るような条例の作成。 ○ゴミ分別の簡略化。
ウ	軽度認知症高齢者が詐欺被害にあいやすい。	認知症の診断を受けていないが、会話が噛み合わないことや物忘れがある。業者の訪問販売に繰り返してしまおう。	○	<ul style="list-style-type: none"> ○手口や被害状況を回覧板で回す。 ○警察署等の出前講座を利用して周知する。 ○留守電にして声を聞いてから出るように周知する。 ○町会で被害の実態調査をし、結果を市に報告して対応策を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○訪問販売お断りのステッカーを全戸配布。 ○一定の条件を設けて詐欺対策録音メッセージの設定や録音器具の貸し出し・取り付けの無償化や一部補助、防犯カメラ（ダミーを含む）の貸し出し。

7-③. 常盤平地区推進会議（平成29年11月9日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
工	介護保険制度が市民、ケアマネ、地域関係者に正しく理解されていない。	年齢に伴い障害サービスから介護サービスへ移行した。必要なサービスを最大限利用しているが、より多くのサービス利用を希望している。	○	○対象者に応じた介護保険制度の普及・啓発を行う。 ○医療、介護等の関係者でサービス内容について統一し、対象者に説明していく。	○障害から介護保険に切り替わる時に、スムーズに移行できるように制度の違いについてケアマネ等が説明していく。制度の違い、説明が必要（障害から介護保険に移行する際）。担当課毎同士の連携が必要。 ○介護保険制度のしおりに利用者のモラルについて記載する。 ・共助で成立している ・医療保険と同一 ・自立支援を促す事を目的にしている。

8. 六実六高台地区推進会議（平成29年11月29日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
11月29日 (水) 13:30~ 15:30	町会		医師		ケアマネ	4	1. 「要援護高齢者」と地域で認識される状態とは。 2. 援護が必要な人を発見するために、それぞれ、「地域の立場で出来る」取り組みとは。また、「地域で出来ないこと」は。
	地区社協		歯科医師	1	介護事業者	6	
	市社協		薬剤師	1	通所介護		
	民生委員	1	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	小規模多機能		
	高支連	1	医療相談員		地域包括	3	
			社会福祉士		市役所	1	
			警察		老人会	1	
		消防					
		理学療法士	1	合計	21人		

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	要援護者を早期に把握するためには	相談受理時、自宅内はゴミに埋もれ害虫（ネズミ、ダニ）が発生し、隣の住民が健康被害を訴えていた。自宅内に犬を飼育しており糞尿に汚染されてもいた。本人は長期間にわたり整容ができておらず体から悪臭を発していた。	○	○心配な状況の高齢者がいたら、「気に掛ける」や「見守る」体制づくりが必要。また地域から排除するのではなく共生できる体制づくり。	○個人情報や過度な解釈の方もおり、情報共有が難しい状況であるため、適切に情報共有が出来る仕組みづくり。
イ	異文化（外国の方）の方は言葉の壁や説明しても納得が得られず対応に困る。				○高齢者パンフレットの外国語作成。 ○通訳の派遣、ボランティアの活用。特に大学との連携

9-①. 小金地区推進会議（平成29年11月22日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者					議題	
11月22日 (水) 16:00～ 17:00	町会	1	医師		ケアマネ	1. 小金地域個別ケア会議の報告について 2. 救急車で搬送時の課題について 3. 小金地区にかかわる情報交換・情報提供	
	地区社協	1	歯科医師		介護事業者		
	市社協		薬剤師		通所介護		
	民生委員	1	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師		小規模多機能		
	高支連	1	医療相談員		地域包括		1
			社会福祉士		市役所		2
			警察	1	・松戸市立病院副看護局長 ・子ども家庭相談課長 ・小金保健福祉センター長		3
		消防	4				
				合計	15人		

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	認知症が進んでいる場合、体操教室等地域の活動に繋ぐにも、日時を間違えずに会場に行くことが難しい。	銀行で高額のお金を引き出そうとした為、銀行と警察の協定により警察が本人と面談した際、認知症を疑った。包括が訪問して面接したところ、軽度の認知症と思われた。	○	○民生委員に包括が行う体操教室に誘ってもらおう。本人が通えるようになれば、オレンジ協力員に会場と自宅の行き来を支援してもらおう。	○オレンジ協力員のスキルアップや活動の充実にむけての研修等の開催。

9-②. 小金地区推進会議（平成29年11月22日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
イ	救急搬送時に、病院の選定にかかる時間の問題、介護施設での対応の問題、救急の適正利用に関する課題がある。	○民生委員が救急要請と搬送時の付き添いを依頼された。1回目は緊急事態で一緒に行ったが、2回目は救急車を呼ぶ状況ではなく、タクシーで自分で行ってもらった。 お金を使わず速やかに病院に行きたい時に救急車を使う方がいる。ほとんどが身内がいない、いても遠方、疎遠になっている状況。	○	○地域でも、救急搬送時に必要な情報（「救急隊が傷病者搬送時に必要な情報10か条」）を把握し、対応力を上げる必要があるが、消防・医療機関と連携し個々の民生委員やケアマネが対応に困らない仕組みづくりが必要。 ○救急搬送を受け入れる市立病院と連携をとることが必要。	○救急搬送時に必要な情報と情報の更新手段について検討し、フィードバックする。 ○松戸市の認知症支援について医療機関とも共有する。 ○救急搬送時の適正利用に関しては、救急常習者の情報を市・包括・民生委員で共有し、地域的に対応する仕組みがあると良い。
ウ	住宅火災について、初期消火の効果が認められているが、住宅用火災警報器の設置件数が伸びていない。		○	住民へ取り付けに関する助成制度の周知を行う。	○住宅用火災警報器の設置や、取り付けに関する助成制度の周知。
エ	電話詐欺被害が増えている。		○	個別訪問時、留守番電話の設定を促す。	○警察と連携した詐欺被害を含めた犯罪情勢の周知と犯罪被害に合わないための方法の普及啓発。

10. 小金原地区推進会議（平成29年8月22日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
8日22日 (火) 16:00~ 17:30	町会	2	医師	2	ケアマネ	4	1. 地域ケア会議についての理解 2. 平成28年度第2回地域包括ケア推進会議の まとめ（報告） 3. 平成28年度第1回、第2回地域個別ケア会議の 検討内容について（報告） 4. 小金原地区「みまもりあいマップ」（仮称）に ついて（グループワーク）
	地区社協	2	歯科医師		介護事業者		
	市社協		薬剤師		通所介護	1	
	民生委員	3	看護師	1	認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	特別養護 老人ホーム	1	
	高支連	3	医療相談員	1	地域包括	6	
			社会福祉士		市役所	1	
			警察		作業療法士	1	
			消防				
				合計	29人		

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	地域で生活する高齢者に異変が起きたときに早期発見、早期介入ができるための見守り、相談、連絡体制が十分とは言えない。	アルツハイマー型認知症発症。ゴミだしの分別や時間のルールが守れず、近所から苦情あり。家族より本人と地域住民との間でどのように関わりを持つてばよいかとの相談あり。	○	「エコマップ」や「緊急時フローチャート」の作成作業を経て、小金原団地の「みまもりあいマップ」（仮称）の作成に着手。	
イ	同上	認知症と癌末期。介護サービスと近隣住民による見守りにて生活。病状の急変や予期せぬ事故、異変に気づいた時の対応について。	○	支援や見守りの必要な方を支える支援者とその役割が見える化し、マップの活用についての検討を行う。	

11-①. 新松戸地区推進会議（平成29年11月10日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
11月10日 (金) 10:30~ 12:00	町会	1	医師	2	ケアマネ	2	1.新松戸地域包括支援センター活動報告 2.個別ケア会議の振り返り 3.グループワーク 地域診断「何を！誰が！いつまでに！やれるのか！！」 4.その他
	地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者		
	市社協	1	薬剤師	1	通所介護		
	民生委員	2	看護師	1	認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	小規模多機能	1	
	高支連	1	医療相談員	1	地域包括	4	
			社会福祉士	1	市役所	1	
			警察	0			
			理学療法士	1			
			言語聴覚士	1			
				合計	25人		

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	気軽に立ち寄れるサロンが地域に少ない。特に、男性介護者が息抜きできる場所がない。	認知症の疑いがあり、日頃不定愁訴が多く、長時間の電話をしてしまう。また、妻を介護する男性が悩みを抱えたまま深刻化している。	○	○サロンにおいてオレンジ協力員などが傾聴ボランティア。 ○困ったときに気軽に立ち寄れるサロンを増やす。	自治会・町会・サロン等とともに専門職（医師や保健師等）を派遣し、認知症や介護に関してミニ講演をおこなう。
イ	ADLが低下しても在宅で健康に生活できるようにするため、現時点では医療と介護の連携が不十分。	往診医や訪問歯科診療が相応しいと思う事例だが、ケアマネが適切な医療機関の選定に悩む。	×	○オレンジ連携シートや医療介護連携シート等、既存の共通の情報共有シートを活用していく。	○既存の共通の情報共有シート活用について普及・啓発。 ○共通様式のない訪問歯科診療等は、必要性について検討する。

11-②. 新松戸地区推進会議（平成29年11月10日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ウ	地域（民生委員）とケアマネの結びつきが希薄で、緊急時の対応などが円滑でない。	数日間姿を見ない人がおり、民生委員が何かあったのではないかと心配していた。後日、すでにケアマネがついておりショートステイを利用していたとわかった。	○	地域包括支援センターが中心となり合同の勉強会などを開催。	
エ	（電動）車いすで入れるお店が少ない。	外出は（電動）車いすを使用。お店に入りたくても段差があり、躊躇してしまう。	○	「支えあう地域づくり」の勉強会の一環としてマップを作成中。障害者専用トイレの有無など調査中。	松戸市のホームページにバリアフリーのお店など掲載。

12-①. 馬橋西地区推進会議（平成29年7月28日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
7月28日 （金） 19：00～ 20：30	町会		医師		ケアマネ		1.馬橋西地域包括支援センター実績及び活動報告（平成29年4月から6月末まで） 2.地域個別ケア会議の振返り（平成29年5月26日開催分） 3.地域課題の提案及び発掘
	地区社協	1	歯科医師		介護事業者		
	市社協	1	薬剤師	1	通所介護		
	民生委員	3	看護師	1	認知症デイ		
	ボランティア		保健師		小規模多機能		
	高支連		医療相談員		地域包括	5	
	オレンジ協力員	1	社会福祉士	1	市役所	1	
			警察				
			消防				
					合計	15人	

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 （①に關係する個別事例がある場合に記入）	③地域での 解決の是非 （○・×）	④地域での対応方針 （③が○の場合に記入）	⑤市レベルで期待すること （任意記入）
ア	地域でゴミ捨てに関する困難を抱えている方で、生活保護受給者は把握できるが、そうでない場合は潜在傾向に陥っている。	家ゴミ屋敷になっていた方。生活保護を受給していたので、民生委員が介入できた。	○	○潜在傾向にある人を早期に発見できるよう地域関係者と支援者で情報共有を行う。	
イ	日常生活に支障をきたすほどのゴミ屋敷になっているが、本人は問題と感ずておらず、金銭的に片付けられない。	日常生活に支障を来す程、居室内外にゴミが山積、散乱している。	○	○近隣住民が本人への共通認識を持ち、ゴミ出しや分別の声掛けをしてゴミ屋敷に戻ることを防ぐ。	○ゴミの問題について関係課と連携する。 ○他地域包括の成功事例を共有する情報交換会の開催

12-②. 馬橋西地区推進会議（平成29年7月28日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ウ	男性事例となると女性の民生委員単独での自宅訪問を躊躇してしまう。	独居の男性宅でゴミ屋敷となっている事例。女性の民生委員が単独で訪問するのに不安があった。	○	人的社会資源による地域の見守りネットワーク、構築する。	
エ	本人及び家族に認知症・精神疾患の自覚がなく、サービスを拒否しており介入ができない。	明らかな認知症状やアルコール依存などの症状が認められるが、本人及び家族に自覚がないため、サービスの導入を拒否して支援者が困っている事例	○	地域住民による見守りと専門職による支援、両者が協働して円滑におこなわれるよう、顔の見える関係をつくる。	高齢者以外の他分野の関係機関との連携強化。

13-①. 馬橋地区推進会議（平成29年9月7日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
9月7日 (木) 09:30～ 11:00	町会		医師		ケアマネ	1	1. 自己紹介 2. 「馬橋地域つどいの場」のマップの利用方法や活用方法を考える 3. 地域の若い世代に向けて、認知症を理解してもらう為にはどうするか
	地区社協		歯科医師	1	介護事業者	6	
	市社協		薬剤師	1	通所介護	1	
	民生委員	1	看護師		訪問介護	2	
	ボランティア		保健師	1	小規模多機能	3	
	高支連		医療相談員		地域包括	4	
	オレンジ協力員	1	社会福祉士		市役所	1	
	ふれあいネットまつど	1	警察		実習生	1	
			消防				
						合計	

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	徘徊が頻回の方への見守りの仕組みが構築できていない。	徘徊のある高齢者。徘徊探知機を何度も紛失してしまい、家族が困窮している。状況は深刻であるが、周囲への周知を拒否しているため、見守りにも苦慮している。	○	「馬橋地域の集いの場」のマップを利用法や活用方法を考える。 ○地区毎の見やすいマップの作成および活用（トイレ情報等含む） ○マップの周知（市民センター・スーパー・駅・各施設・病院等） ○作成したマップが、本人や家族だけでなく支援者が利用できるような資源であること	○マップの作製費の助成 ○高齢者の見守り協定（企業など）コミュニティづくりの働きかけ

13-②. 馬橋地区推進会議（平成29年9月7日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
イ	徘徊の方の早期発見や見守りなど、住民への周知がまだまだ確立していない。	夫婦ともに徘徊が頻回。スーパーで商品を鞆に入れてしまい万引き行為と間違えられてしまう。地域に於いてどのように関わり、支えていくべきか検討した事例。	○	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民との交流できる場や、小学生を対象にしたフェスティバル等での認知症の啓発を行う ○松戸まつりをはじめとするイベントでの周知・啓発活動 ○近隣の大学生を対象としたサークルや課外授業で認知症サポーター養成講座を開く ○地域単位のオレンジ協力員の連携と活動状況の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ○サポーター養成講座がスムーズに出来るように企業の本部に繋げる ○キャラバンメイトの養成講座を増やす ○認知症に関する知識を学校の授業に組み込む ○市全体のオレンジ協力員の連携と活動状況の共有